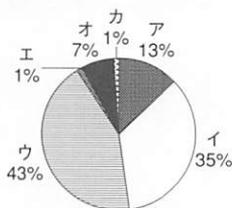


問202 あなたは高校を卒業した後、どうい
う進路を希望していますか。

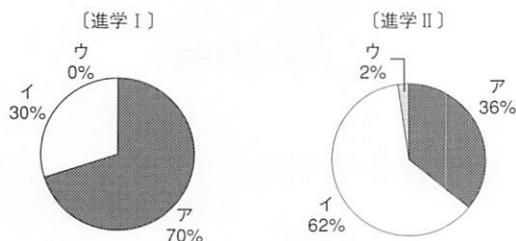
- ア. ノートルダム清心女子大学
- イ. その他の私立4年制大学
- ウ. 国公立4年生大学 エ. 短期大学
- オ. 専門学校・各種学校 カ. 就職



(2) 高等学校3年生対象のアンケート結果
(1997年2月実施)

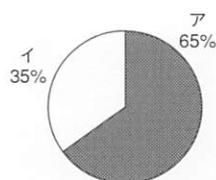
問203 あなたが在籍していた期間は、次のど
れに該当しますか。

- ア. 中学・高校の6年間
- イ. 高校3年間
- ウ・その他



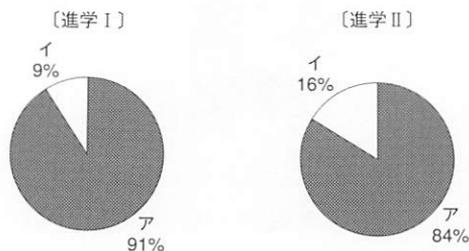
問204 あなたはどちらのコースですか。

- ア. 進学Iコース
- イ. 進学IIコース



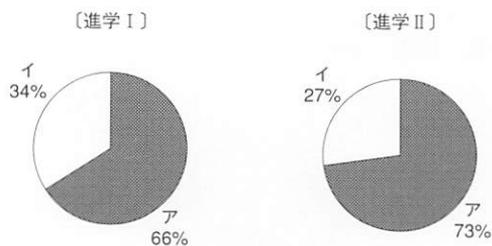
問205 あなたは現在のコース（進学I・進学
II）を選択してよかったと思いますか。

- ア. はい
- イ. いいえ



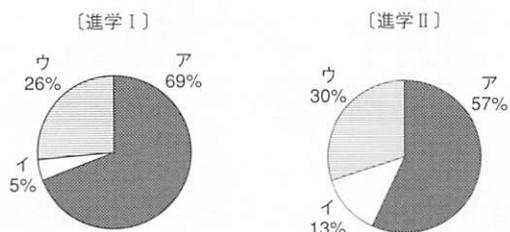
問206 コース別になっていることをどのよう
に思いますか。

- ア. コース別の方がよい
- イ. コース別でない方がよい



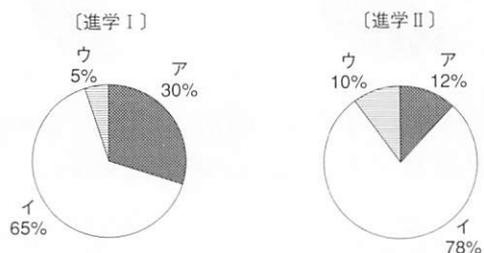
問207 本校がミッションスクールであること
についてどう思いましたか。

- ア. よい体験ができた
- イ. 抵抗を感じた
- ウ. 特に意識しなかった



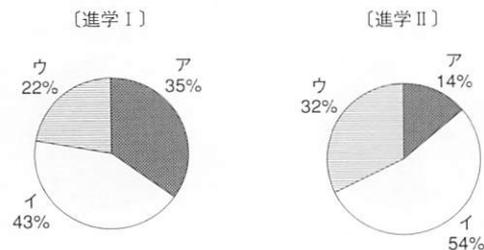
問208 ミサを体験して、どのような感じをもちましたか。

- ア. カトリックの学校でキリスト教の雰囲気を感じる事ができてよかった
- イ. 他では体験できない貴重な体験ができた
- ウ. 形式的な行事で、抵抗を感じた



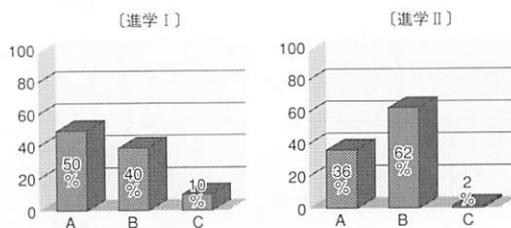
問209 霊的講話についてどのように思いますか。

- ア. 聖書の中で価値観が学べ、為になった
- イ. 為になると思うが、内容や方法を工夫して欲しい
- ウ. 必要ない

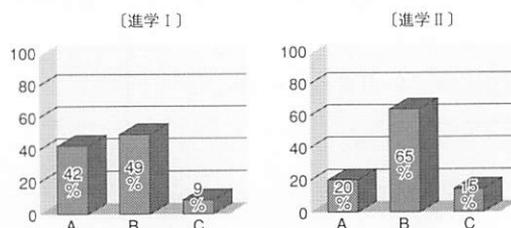


問210 次の各項目について学校生活の中で魅力であると感じたものにはA, 否定的に思えたことにはC, どちらともいえないものにはBで答えて下さい。

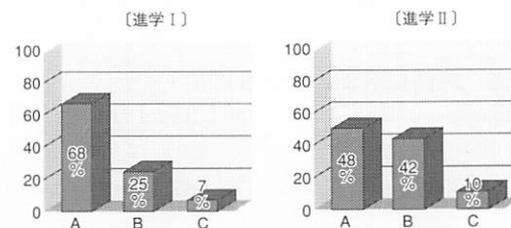
① 中・高6年一貫教育であること



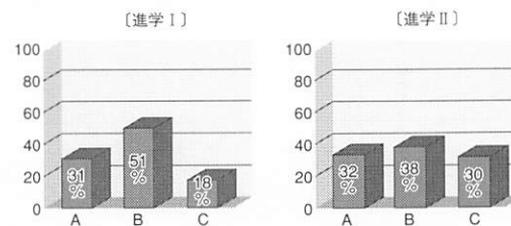
② キリスト教に基づく教育を行っていること



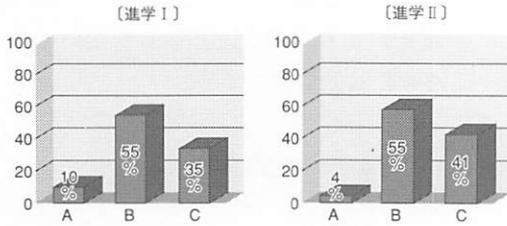
③ 英語教育に力を入れていること



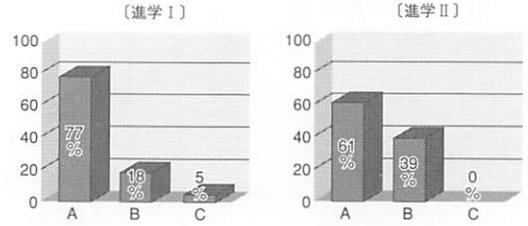
④ 受験に対応できる学力がつけられること



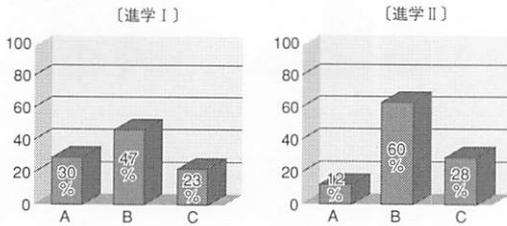
⑤ しつけなどが厳しいこと



⑨ 姉妹校へ海外研修に行けること

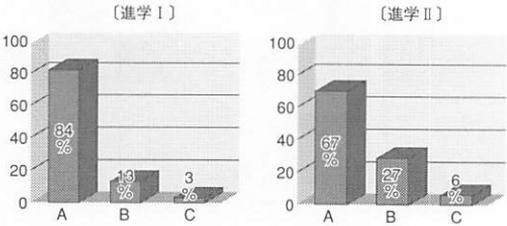


⑥ 女子校であること



問211 次の意見について、そう思う場合は「はい」、そう思わない場合は「いいえ」で教えてください。

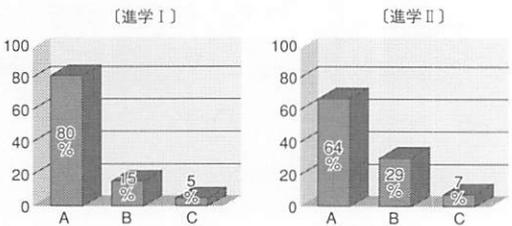
⑦ 環境に恵まれていること



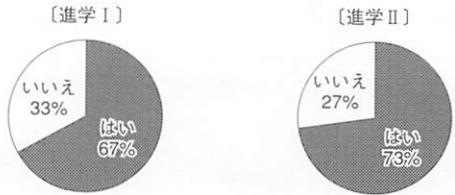
① 受験勉強は、学んだことをまとめるよい機会である



⑧ 設備に恵まれていること



② この世の中では、実力があっても学歴がなければ、なかなか社会が認めてくれない。



③ 10年先は、学歴優先社会ではなく、実力優先社会になっている。



④ 業者テストによる偏差値を進路指導に中心的に使われることは仕方がない。

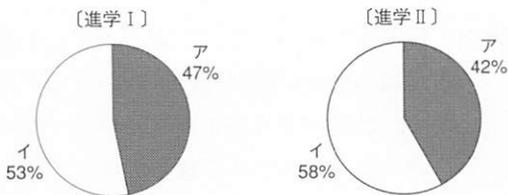


⑤ 校内テストは、大学進学には役に立たない。

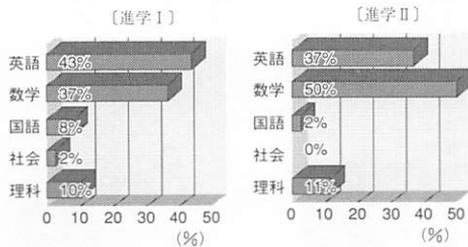


問112 あなたは、高校3年間で、家庭教師に教えてもらったことがありますか。

ア. ある イ. ない

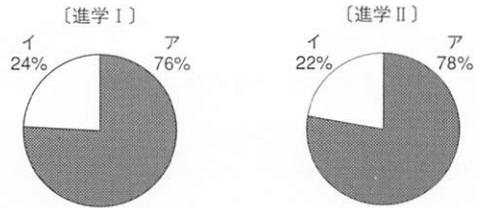


問113 問112でアと答えた人は、どの教科を教えてくださいましたか。

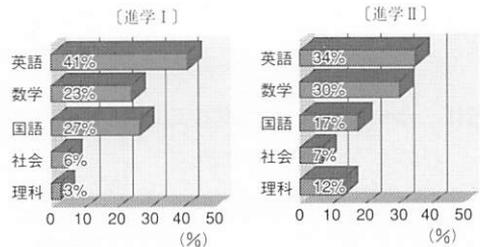


問214 高校3年間で、あなたは塾や予備校に通いましたか。

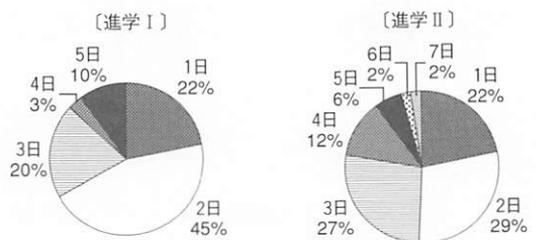
ア. 通った イ. 通わなかった



問215 問214でアと答えた人は、どの教科を教えてくださいましたか。

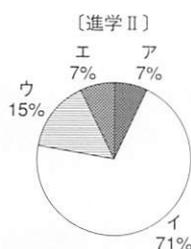
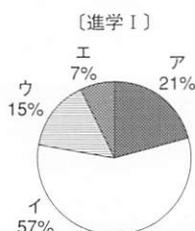


問216 問214でアと答えた人は、週に何日通いましたか。



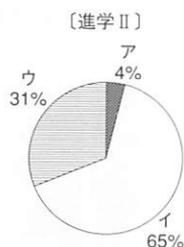
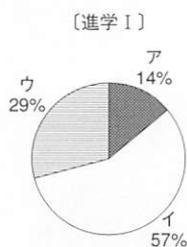
問217 進学校でも、授業外の受験用補習授業を実施していない学校がありますが、夏期・冬期の補習についてどのように思いますか。

- ア. 現状でよい
- イ. 自由参加にすべきである
- ウ. なくてよい
- エ. わからない



問218 今まで着てきた本校の制服について、どのように思いますか。

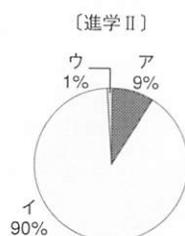
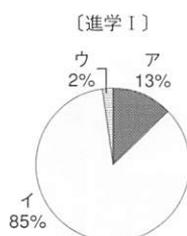
- ア. 満足している
- イ. 着たくなかった
- ウ. 何も思わない



問219 制服についての意見として自分の意見に一番近いものを選んでください。

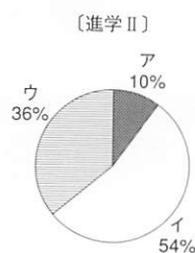
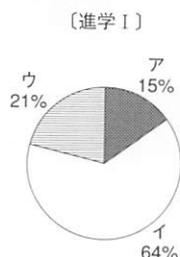
- ア. 制服は、学校の伝統を反映したもので、学校で決められたものをきちんと着ることが大切である
- イ. 制服は必要だが、デザインなど社会の変化に対応して変わるもので、生徒の意見も採り入れて変えて欲しい

ウ. 制服は廃止すべきである。



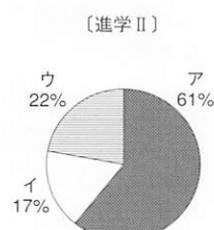
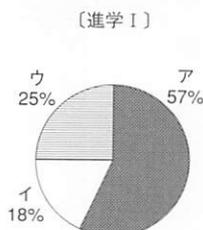
問220 校則について、どのように思いますか。

- ア. 守れたと思う
- イ. だいたい守れたと思う
- ウ. 気にしていない



問221 修学旅行について、従来のように1学年が同じ場所に集団で行くというのではなく、教科の先生が企画したいいくつかのコースから、クラスの枠を越えて選ぶという形で実施している学校もあります。どのように思いますか。

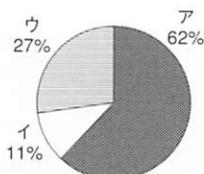
- ア. よいと思う
- イ. 従来のように一団で行きたい
- ウ. どちらでもよい



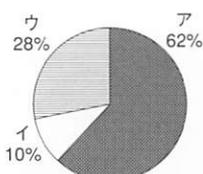
問222 本校では中学校での修学旅行がありませんが、そのことについてどのように思いますか。

- ア. あった方がよい イ. なくてよい
ウ. どちらでもよい

〔進学Ⅰ〕



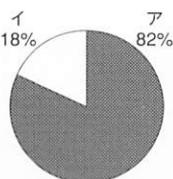
〔進学Ⅱ〕



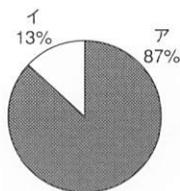
問223 修学旅行で外国に行くことについてどのように思いますか。

- ア. 行ってもいいと思う
イ. 学校から行かなくてもよい

〔進学Ⅰ〕

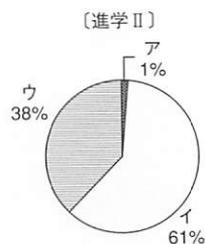
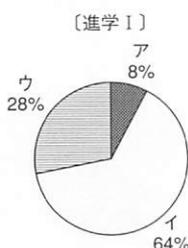


〔進学Ⅱ〕



問224 修学旅行について、どのように計画したらよいと思いますか。

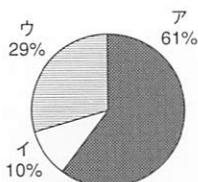
- ア. 従来のように、教師の側で検討を重ねて計画したものに参加する形でよい
イ. 生徒の意見をアンケートのような形で聞き、希望を考慮して計画して欲しい
ウ. 生徒会活動の協力などを得て、生徒の意見を調整しながら進めて欲しい



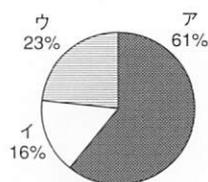
問225 3年間の教育課程の中に、一定期間留学体験する海外研修が組み込まれたコースがあったら行きたいと思いますか。

- ア. 行きたい イ. 行きたくない
ウ. わからない

〔進学Ⅰ〕

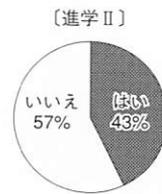


〔進学Ⅱ〕

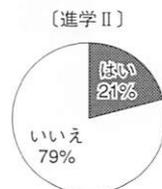
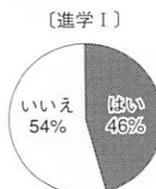


問226 本校に対する意見として、次の項目でそう思う場合は「はい」、そう思わない場合は「いいえ」で教えてください。

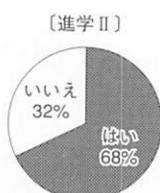
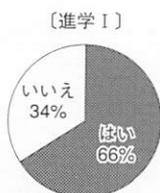
① 学習の進み方が早い



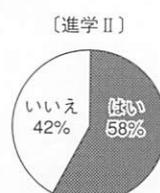
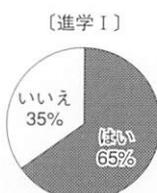
② 授業内容が充実している



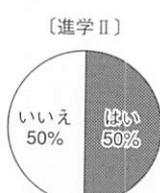
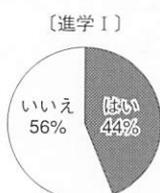
③ 担任の先生はよく理解してくれている



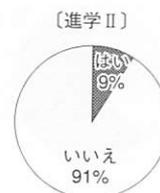
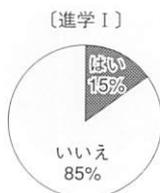
⑧ 金がかかる



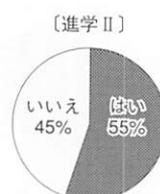
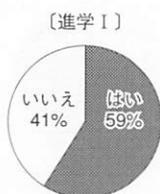
④ 受験のための勉強に力を入れている



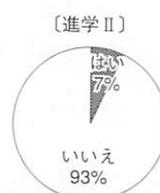
⑨ 学校の規則は今よりきびしいほうがよい



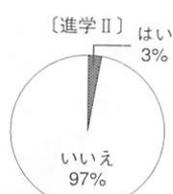
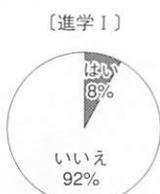
⑤ よく勉強ができる生徒が多い



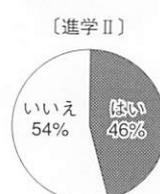
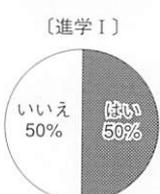
⑩ 一人ひとりの個性を生かした教育が行われている



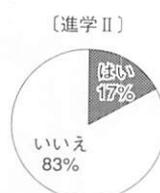
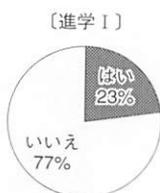
⑥ 教師による体罰がかなり行われている



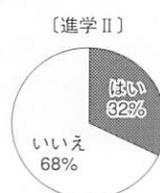
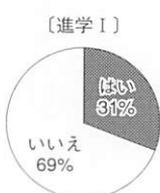
⑪ 熱心な教師が多い



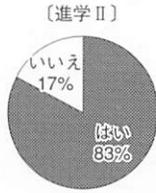
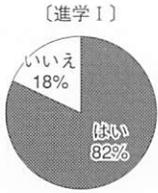
⑦ 非行の話をよく聞く



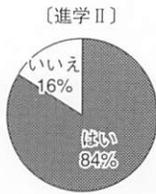
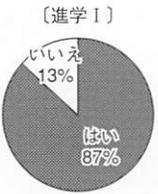
⑫ 校則は厳しくない



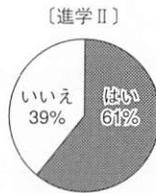
⑬ 校則は厳しいが、守りかたはルーズである



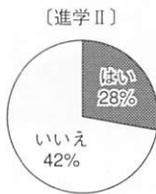
⑭ 適切でない校則もあるので改正して欲しい



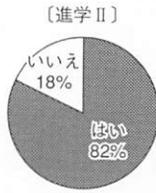
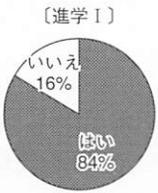
⑮ 五島への研修旅行は変更して欲しい



⑯ 設備が貧弱である

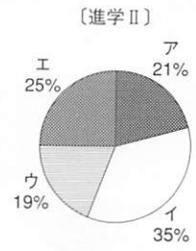
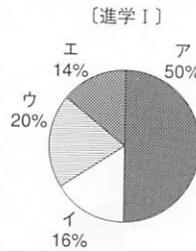


⑰ コンピュータ教育を充実して欲しい



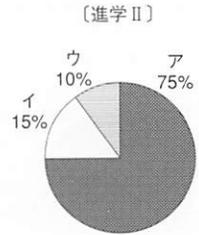
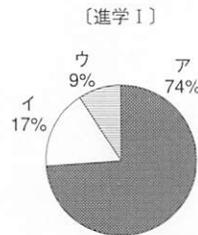
問227 あなたは、本校の部活動についてどのように思いますか。

- ア. 部活動に参加し、充実した高校生活を過ごした
- イ. 部活動に参加したかったが、参加できなかった
- ウ. 部活動が不活発で、参加できる状態ではなかった
- エ. 考えなかった



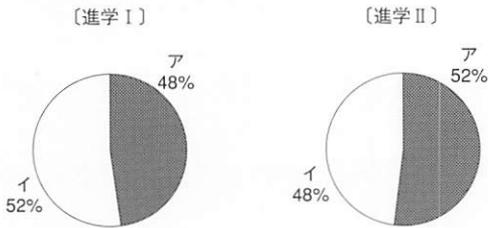
問228 インターネットなどのコンピュータを取り入れた授業についてどのように思いますか。

- ア. 取り入れる方向で考えて欲しい
- イ. 学校の授業ではあまり必要を感じない
- ウ. 考えたことがない



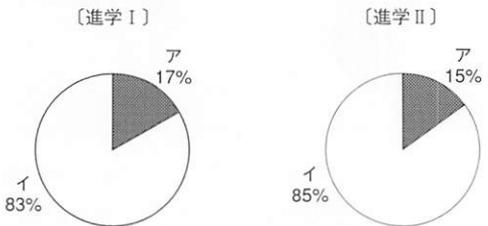
問229 家庭にコンピュータがありますか。

ア. ある イ. ない



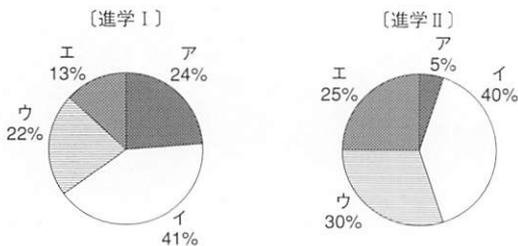
問230 インターネットに家で接続できますか。

ア. 出来る イ. 出来ない



問231 本校の進路指導についてどのように感じましたか。

ア. 満足している イ. ほぼ満足している
ウ. やや不満である エ. 不満である



問232 問231でウ・エと答えた人は、そのもっとも大きな理由を選んでください。

ア. もっときめの細かい指導をして欲しい
イ. 本人の希望を尊重して欲しい

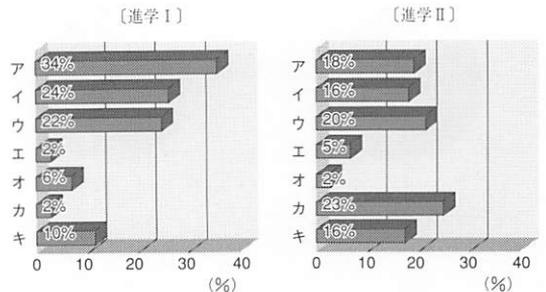
ウ. 受験に対応する学力をつける指導がされていない

エ. 受験対応の演習に偏りすぎているので、本来の授業を大切にしたい

オ. 小論文指導に力を入れて欲しい

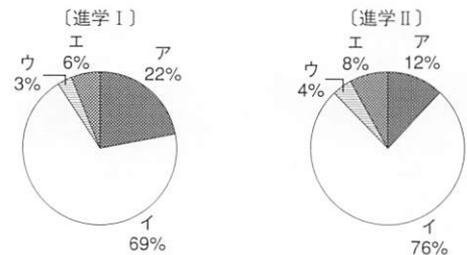
カ. もっと国公立受験に対応した指導をして欲しい

キ. もっと私立大学受験に対応した指導をして欲しい



問233 本校の学校生活の中で、好感のもてる先生に出会いましたか。

ア. 何人も出会った イ. 数名だが、出会った
ウ. まったくいなかった エ. わからない

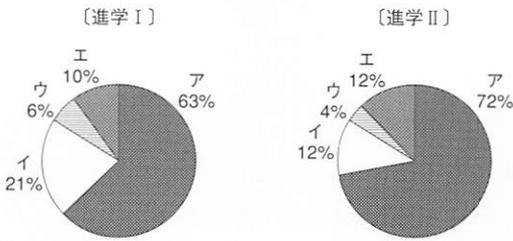


問234 あなたは、卒業後の将来にどのような期待をしていますか。

ア. 専門性をもった職業で活躍したい

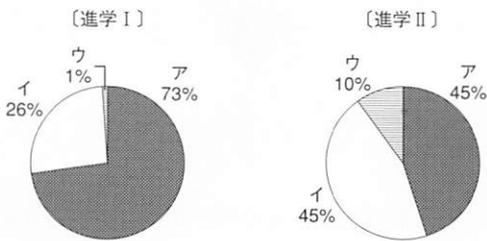
イ. 家庭を大切にし、地元の企業や公務員として堅実な職業人として働きたい

- ウ. 家庭にあつて、地域社会に貢献したい
- エ. その他



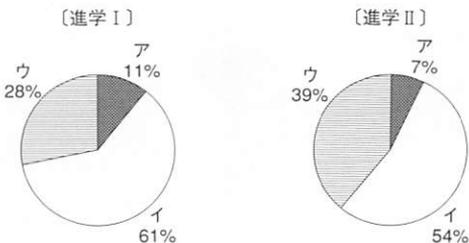
問235 あなたは、清心女子高等学校の卒業生になることを誇りに思いますか。

- ア. 誇りに思う
- イ. 何も思わない
- ウ. 隠したい



問236 あなたが将来女の子をもつたとしたら清心学園に入学させたいと思いますか。

- ア. 入学させたい
- イ. わからない
- ウ. 入学させたくない



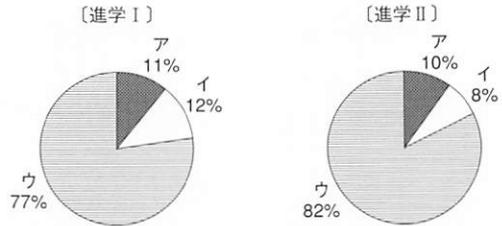
問237 卒業するにあつて、本校がどのような学校であつて欲しいと思いますか。

- ア. 有名大学に多数合格する学校であつてほ

しい

- イ. 生徒指導が厳しいきちんとした学校であつてほしい

- ウ. 大学進学だけを考えるのではなく、人間的にあたたかい学校であつてほしい



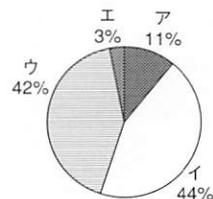
6. 保護者対象のアンケート結果

保護者へのアンケートは、中学、高校の保護者に協力をお願いした。高校については、コース別で結果をまとめた。なお、本校での当時のコースは、Iコースが私立大学文系への進学者が多いコース、IIコースが理系及び国立大学への進学者が多いコースと位置付けている。Iコースが4クラス、IIコースが3クラスという構成である。

(1) 中学3年生保護者対象のアンケート結果 (1996年2月実施)

問238 中学校の教育費についてどう感じられましたか。

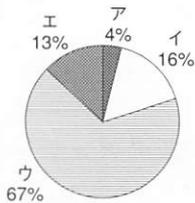
- ア. とても負担に感じた
- イ. やや負担に感じた
- ウ. あまり負担に感じていない
- エ. 全く負担に感じていない



問239 学校や教師について、次の項目について、どのように感じられますか。

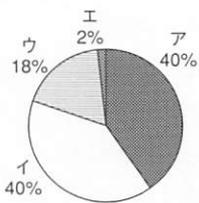
① 子どもは、できるだけ長い時間学校にいらして欲しい。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



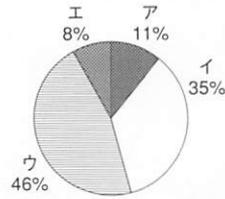
② 子どもの成績が下がったとき先生に個別指導をして欲しい。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



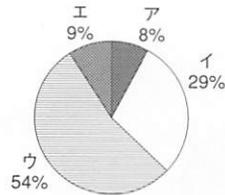
③ 学校はもっと宿題を出して欲しい。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



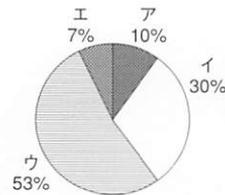
④ 子どもが学校の勉強についていけなくなるのは、先生の教え方が悪いからだ。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



⑤ 子どもは親よりも先生が叱った方がききめがある。

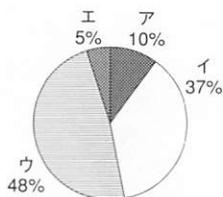
- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



⑥ 学校では、勉強よりも躰の訓練をきちんとしてほしい。

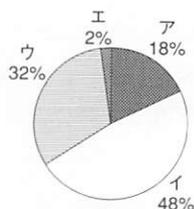
- ア. とてもそう思う

- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



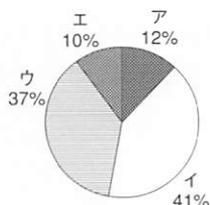
⑦ 勉強は学校だけでは十分ではない。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全然そう思わない



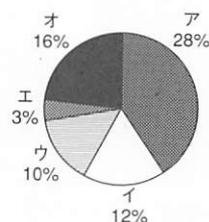
問240 中学の進路指導についてどう感じられましたか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



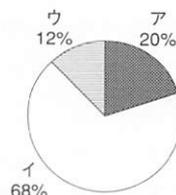
問241 問240でウかエと答えた方は、その最も大きな理由を選んで下さい。

- ア. もっときめ細かい指導をして欲しかった
- イ. もっと生徒の自主性を尊重して見守って欲しかった
- ウ. 将来の大学受験に対応するだけの学力をつけてもらえなかった
- エ. 教科指導が将来の大学受験にシフトしすぎていた
- オ. 保護者との連絡をもっと密にして欲しかった



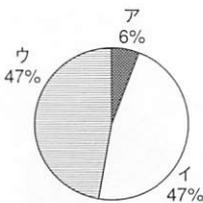
問242 高校では進学Ⅰと進学Ⅱに分かれますが、このコース選択についてどのように思われますか。

- ア. 現状のように高1からコース別の方がよい
- イ. 問題点を改善しながらコース制を続けるのがよい
- ウ. コース制はやめた方がよい



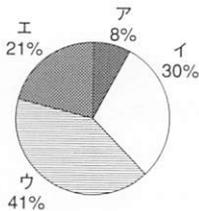
問243 中学では、一人ひとりの個性を生かした教育が行われていると思いませんか。あなたのお気持ちに近いものを選んで下さい。

- ア. 個性を生かした教育が行われている
- イ. どちらかと言えば、個性を生かした教育が行われている
- ウ. 個性を生かした教育は行われていない



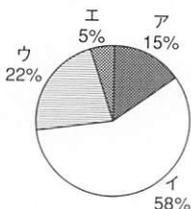
問244 中学の制服についてどう感じられましたか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



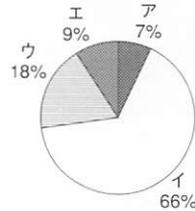
問245 中学の校則の内容についてどう感じましたか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



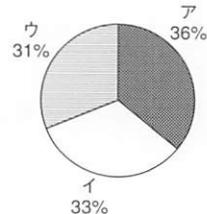
問246 中学の生徒指導についてどう感じましたか。

- ア. 厳しすぎる
- イ. 妥当である
- ウ. 甘すぎる
- エ. 特に何も感じない



問247 中学の部活動についてどう感じられましたか。

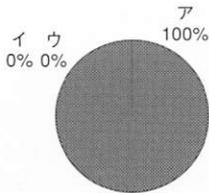
- ア. 全体的に活力がない。もっと積極的に活動すべきだ
- イ. いくつかの部はよくがんばっていると思う
- ウ. 確かに活発とは言いがたいが、女子校としてはこの程度で十分である



問248 ニュージーランド海外研修に参加された方のみお答え下さい。ニュージーランド海外研修についてどう思いますか。

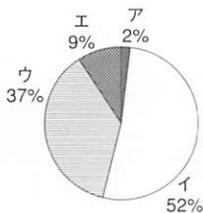
- ア. よい体験学習が経験できたと思う
- イ. 戸惑うことが多く、参加させたことを後悔している

ウ. 費用が高額で、経済的負担が大きすぎる



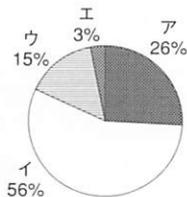
問249 本校の中・高6年一貫教育では、何が最も重視されるべきだと思いますか。

- ア. 教科担当者や担任の持ち上がり
- イ. 促進授業を含む、大学入試に向けたカリキュラムの充実
- ウ. 促進授業を特に意識せずに、時間に「ゆとり」を持たせたカリキュラムの充実
- エ. 6年間の流れを考えた学校行事の実施



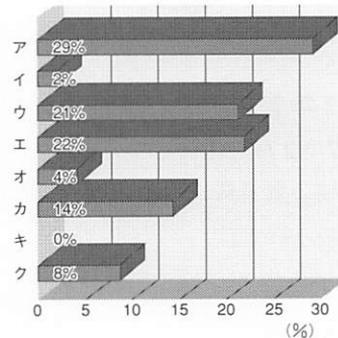
問250 お子さまを中学に入学させて満足していますか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



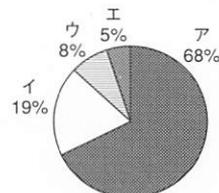
問251 将来、お子さまが短大や大学に進学するとしたら、どんな短大や大学に進学して欲しいと思いますか。あてはまるものを全て選んで下さい。

- ア. 家から通学できる学校
- イ. 大都市にある学校
- ウ. 学費が安い学校
- エ. 就職状況がよい学校
- オ. 入るのが難しい学校
- カ. 男女共学の学校
- キ. 男女別学の学校
- ク. 育ちの良い学生の集まる学校



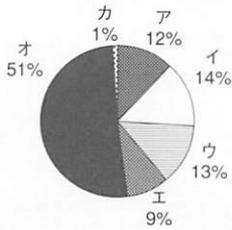
問252 あなたはお子さまの将来についてどのような期待を持っていますか。

- ア. 専門性をもった職業で活躍してもらいたい
- イ. 家族を大切にし、地元の企業や公務員として堅実な職業人として働いてもらいたい
- ウ. 家庭にあって、地域社会に貢献してもらいたい
- エ. その他



問253 今後、本校の教育についてどのようなことを期待されますか。

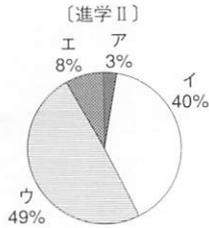
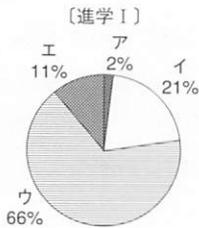
- ア. キリスト教精神に基づいた人間教育
- イ. 国際理解教育
- ウ. 受験指導
- エ. 女子としての躰
- オ. 自立した人間になるための女性教育
- カ. その他



(2) 高校3年生保護者対象のアンケート結果
(1997年2月実施)

問254 本校の教育費についてどう感じられましたか。

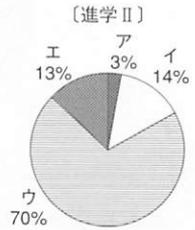
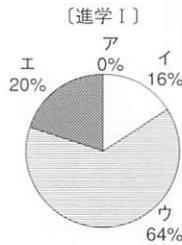
- ア. とても負担に感じた
- イ. やや負担に感じた
- ウ. あまり負担に感じなかった
- エ. 全く負担に感じなかった



問255 学校や教師について次の項目についてどのように感じられますか。

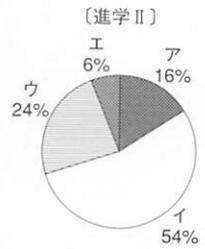
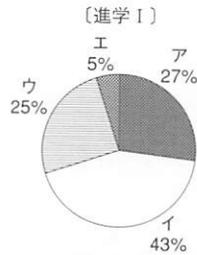
① 学校にできるだけ長い時間いさせて欲しい。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない



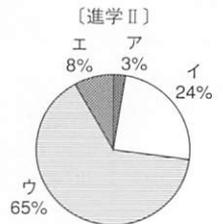
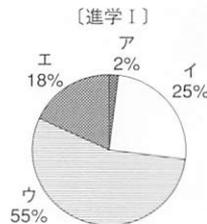
② 学校の成績が下がったときは、個別に指導して欲しい。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない



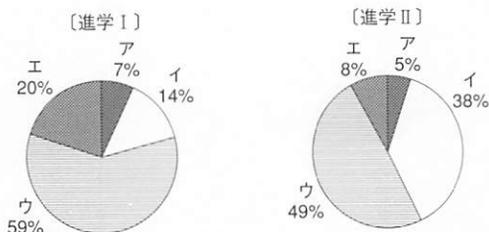
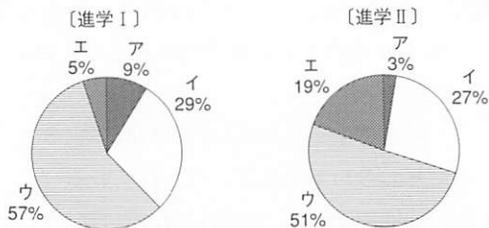
③ もっと宿題を出して欲しい。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない



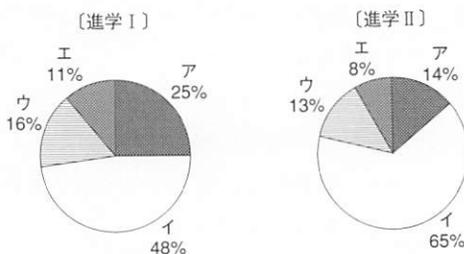
④ 学校の勉強についていけなくなるのは、先生の教え方がわるいからだ。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない



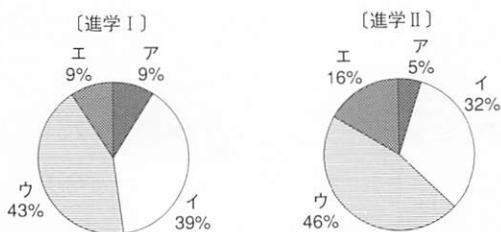
⑦ 勉強は学校だけでは十分ではない。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない



⑤ 子どもには、親よりも先生が叱った方が効果がある。

- ア. とてもそう思う
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない

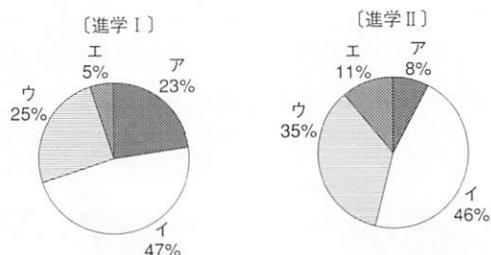


問256 本校の進路指導について、どのように感じられましたか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である

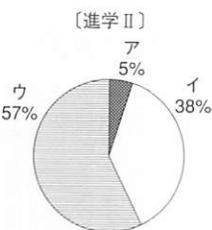
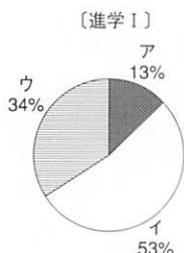
⑥ 学校では、勉強より躰の訓練をきちんとし
て欲しい。

- ア. とてもそう思う。
- イ. まあそう思う
- ウ. あまりそう思わない
- エ. 全くそう思わない



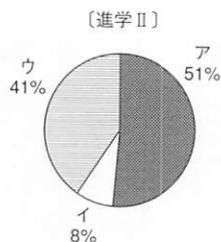
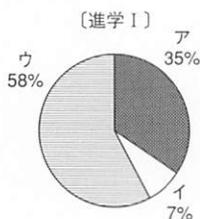
問257 本校では一人ひとりの個性を生かした教育が行われていると思われましたか。

- ア. 個性を生かした教育が行われている
- イ. どちらかといえば、行われている
- ウ・個性を生かした教育は行われていない



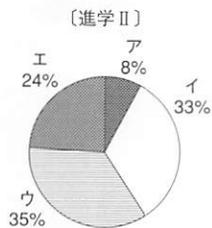
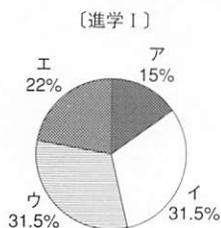
問258 本校の教師について、どのように感じられましたか。

- ア. 教育者として熱心な教師が多い
- イ. サラリーマン化した無気力な教師が多い
- ウ. どちらともいえない



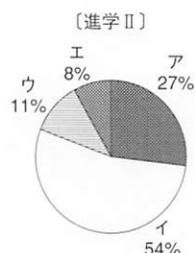
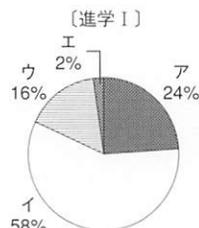
問259 本校の制服についてどう感じられましたか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



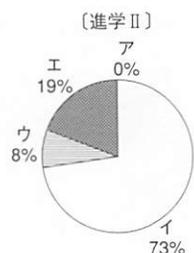
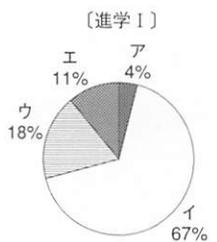
問260 本校の校則の内容についてどのように感じられましたか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



問261 本校の生徒指導についてどのように感じられましたか。

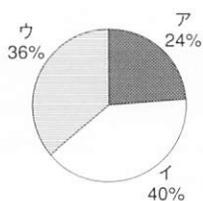
- ア. 厳しすぎる
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である



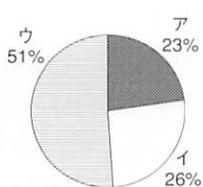
問262 本校の部活動についてどのように感じられましたか。

- ア. 全体的に活気がない。積極的に活動すべきだ
- イ. いくつかの部がよく頑張っていると思う
- ウ. 女子校ではこの程度で十分である

〔進学Ⅰ〕



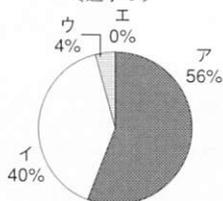
〔進学Ⅱ〕



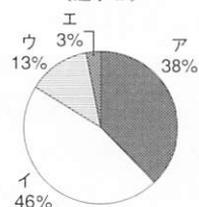
問263 お子さまを、本校に入学させて満足していますか。

- ア. 満足している
- イ. ほぼ満足している
- ウ. やや不満である
- エ. 不満である

〔進学Ⅰ〕



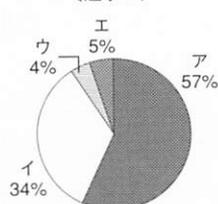
〔進学Ⅱ〕



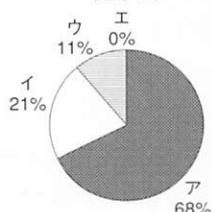
問264 卒業後のお子さまの将来についてどのような期待を持っていますか。

- ア. 専門性をもった職業で活躍して欲しい
- イ. 地元の企業や公務員として堅実に働いて欲しい
- ウ. 家庭にあつて地域社会に貢献して欲しい
- エ. その他

〔進学Ⅰ〕



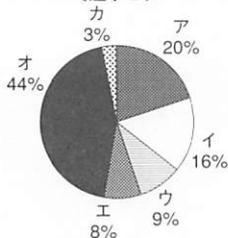
〔進学Ⅱ〕



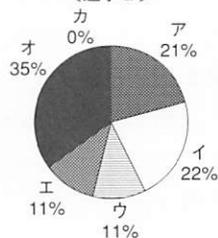
問265 今後、本校の教育についてどのようなことを期待されますか。

- ア. キリスト教精神に基づいた人間教育
- イ. 国際理解教育
- ウ. 受験指導
- エ. 女子としての躰
- オ. 自立した人間となるための女性教育
- カ. その他

〔進学Ⅰ〕



〔進学Ⅱ〕



7. アンケートのまとめ

アンケートの項目は多岐にわたり、量も多いので、具体的には結果を直接参考にしていただきたい。ここでは、全体的に特徴となる事項について説明を加える程度にしたい。

(1) 教員対象のアンケートについて

母集団の男女比はほぼ1：1である。高齢化が進んでおり、35歳以下が13%しかいない。生徒や保護者のアンケート結果と異なり、その指向性が明確ではないのが特徴である。指向性の矛盾点を以下に整理する。

生徒指導はどうあるべきか。

「子どもの権利条約」や性教育に対する関心や意識は高い。「生徒から学ぶ姿勢」や「生徒との一体感が大切」、「規則を精選・簡素化すべきだ」という意見が最も多い。しかし一方で、例えば、生徒の性的な関係についての処置では「処分する必要がない」が3割しかなく、謹慎など何らかの処分を望んでいる。性的な関係を「子供の権利条約」の視点から見れば、個人の

生き方の問題であり、このことのみで処分はできない。8割が「子どもの権利条約」について肯定的な評価をしているのだから、もし理解が正確であるならこのような回答にはならないはずである。「子どもの権利条約」は、一般的には、適用する場合に多くの問題が指摘されており、議論が多い条約なのである。教育の新しい流れに対して「建て前」を簡単に受け入れようとはするが、それを肯定するにせよ、否定するにせよ、そこから派生する問題を正確に想定できないという傾向がある。

特別活動を通して生徒とどうかかわるか。

教員になった動機は「教えることが好き」あるいは「子どもが好き」という回答が合計するとほぼ半数になる。「生徒と一体感を持ちたい」や「生徒から学ぶ」という姿勢を持っている人も多い。しかし、生徒会関連行事への教員の参加は少なく、また、正規的教育課程ではないが、部活動の現状も活発とは言えない。その一番大きい原因として、授業時間数や生徒の通学時間などの時間的な諸事情が回答されているが、他校でも同様な状況下であり、にもかかわらず、活動の活発な学校も多いのであるから、それらのみが原因とは言いきれない面がある。例えば、生徒会が計画した送別会に、参加しなかった教員は4割で、そのうち7割は授業・出張であったとしているが、全職員の3分の1が少しも空き時間が無かったとは考えにくい。その日だけにしかない3年生の送別会よりも、他の日常的な業務を選択しているという、優先順位の問題なのである。また、参加したと答えている教員も6割いるが、生徒と同じように開始から終了まで参加しているわけではない。私の生徒会顧問の経験(1992～1996年)では、開始時間に教員が数名しか立ち会っていない年もあった。その他の生徒会行事においても、似たような傾向があったと記憶している。「生徒と一体感を持

ちたい」が4割いるならば、このような状況は考えにくい。気持ちに行動が伴っていないという問題点があげられる。また、アンケートでは、どのように自分が考えているかではなく、最も教員として好ましいのはどれかという視点で選択している可能性もうかがえる。

教育課程・教育環境をどうするか。

コース制については、「多くの問題を残した」あるいは「どう評価していいかわからない」とで、7割になる。一方で、国公立大学現役合格者数が増加したのは、特進コース(Ⅱコース)の成果だとしている人が多い。進学実績を伸ばした面ではコース制を肯定しているが、教育課程の面では、単純に肯定できないといったところであろう。今後の方針については「存続そのものを含めて検討すべき」あるいは「廃止すべき」が、合わせて7割ある。

コース制は現時点では変更されている。従来のコース制では、入学の時点で、Ⅰコースを選択すると、理系へ進学できないということがあったが、1998年度入学生から高校2年次のコース選択導入で、この点については解決された。しかしながら、まだコース制については議論があり、検討しなければならない点が多い。合わせて週5日制、総合科目の導入など新たな問題もでてきている。

教育環境については、現状に満足しておらず、クラス人数、教諭数、設備の現状について不満を持っている教員が多い。

進学指導をどうするか。

進学では「国立大学に進学できるように工夫すべき」が6割、「理系に進学できるように」が9割、「学力があるなら、ノートルダム清心女子大学より国立大学へ進学して欲しい」が半分以上というように、進学について充実させなければならぬという意見は多い。しかし、一方で、「一流大学合格を目的にした進学校を目

指すべきだ」というのは7割が否定し、進学実績を上げること自体を目指すのには抵抗を示している。進路指導の体制は、「進路指導部中心ではなく、学年団主導型がよい」を指向していることや、受験指導は「あくまで生徒自身の希望を尊重」としていることをあわせて考えると、学校全体で無理をして取り組むほどではないが、ほどほどに進学校であって欲しいということであろうか。

学校経営と教育理念をどう考えるか。

公立高校入試制度の変更で、「私学間の競争が激化し、自然淘汰される」が8割で、対策を講じなければならないと思っており、具体的には「県内の生徒を多く取るように対策をたてるべき」と8割が判断している。大半の教員が、学校経営にとって困難な時代の到来を予測している。しかしながら、この時期を、本校の教育理念を再確認する「よい機会である」という意見も半数以上ある。学校経営を一番に据えて危機回避をするのか(それが応急的な方法であれ、長期的な方法であれ)、あるいは教育理念を一番に据えて考えるのか、どちらに向かうかはこれからの取り組み方によって決まるのではないだろうか。

清心小学校からの推薦入試についても、現状では「試験の点数で不合格者を出す」方式をとっている。それを肯定する意見が6割ある。一方、人数枠を作るなどの方策を講じてでも、「小学校で推薦された生徒は全員合格」とした方がいいという人も2割いる。後者は、関連校との関係を考えた意見である。「成績の優秀な生徒が欲しい」「前向きに取り組んでくれる生徒が欲しい」など、入試には、いろいろな思惑が入りこむ。しかし、入試方法は、その学校の教育理念や方針が見えてきやすい例であるから、対外的な意味も考えて、一貫したあり方ではない。

今回のアンケートほど質問の微細かつ多量なものがかつてなかったが、ここ10数年この種の議論がなされてきたと思う。優秀な生徒を確保し、進学実績や評価をあげるという現実的側面と、例えば、清心小学校から推薦されたが、優秀でない生徒に手をかけて育てるという理想的側面と、また、ひよっとすると手間や時間をかけたくないという本音があるとすれば、討論は何重もの構造になっていて問題が錯綜してくる。宗教教育をどう考えるか。

ミッション系であることについて、カトリック精神に基づく「考え方が社会的に必要とされている」が約半数を占め、「実践していく必要がない」という回答は皆無であった。一方、どこにミッションであることを感じるかの問いには、「本校の生徒に対する指導」が1割以下しかなく、「教育課程・行事」「名前」「建造物」「シスター」など目に見えるものから感じとっている人が9割以上いる。さまざまな事情があるが、現状では、結果として具体的に目に見えるものからしか感じ取りにくいということであろうか。また、シスターが少なくなったときは、「宗教教育は信者でなくても担っていく人があれば実践していく」と考えている人が半数以上である。ミッション系の私学の考え方とはいかなるものかの再確認が必要であろう。

(2) 中学生対象のアンケートについて

① 中学1年生

学習面ではどうなっているか。

家庭での学習時間は、塾を含めて2～3時間が多い。週2回以上塾に通っている生徒が半数以上で、1割の生徒が家庭教師についている。塾(家庭教師)で習っている教科は英語が最も多く、目的は「学校の成績を上げたいから」が半数以上である。「授業内容がわからないとき普通どうするか」という問いで、「学校の先生に質問する」が5%しかいない。学校の成績を

上げるために、塾などに行き、学校では質問しない。成績については、「もっと良くなる」と思っている生徒が7割以上である。生徒が積極的に教師に質問する姿が日常的に見られる教室にしたい。

部活動ではどうなっているか。

部活動には、6割以上が入っていない。入らない理由は、「帰宅が遅くなるから」が多く、通学条件が問題になっている。また、「勉強と両立できそうにないから」が次に多いが、塾へ通っている生徒数の多さを考えると、中学生の時期から、勉強をかなり意識していることがわかる。放課後は「すぐに家に帰る」が9割になっている。中学生は、特別活動にあまり参加せず、塾に通うように学校に通っている生徒像が浮かび上がってくる。

何を学校に期待しているか。

本校を受験することを決めた時期は、ほぼ8割が小学校5・6年生の時期である。入学は、7割が自分で希望し、7割が第一希望であったと答えている。受験するにあたって魅力を感じたのは、「英語教育に力をいれている」や「環境・設備に恵まれている」、「6年一貫教育」などがあげられる。全体的にイヤだと思っていることは、この時点では少ない。本校での学校生活で「受験に対応できる学力」、「英語の力」をしっかり身につけたいと思って入学している。卒業後の進路については、この時期すでに清心女子高等学校以外を考えているものが、23%もいる。

②中学3年生

宗教教育についてどう思っているか。

ミッションスクールであるということは、それほど意識していないが、ミサには抵抗が無く、むしろ貴重な体験ができるととらえている。ただし、霊的講話は4割を超える生徒が必要ないとしている。「工夫して欲しい」を加えると7

割になってしまうので、何らかの理解を促す取り組みが必要な時期にきている。

学習面ではどうなっているか。

塾に通っている生徒が7割に増え、家庭教師に教えてもらった経験をもつ生徒も3割に増えている。習っている教科は英語・数学の2教科が多い。よく勉強ができる生徒が多いと思っている。

部活動・特別活動ではどのようになっているか。

部活動については、「参加し、充実した学校生活を過ごした」と思っているのは、3割程度で、加入数が低い結果と相関している。修学旅行は現在実施されていないが、6割の生徒が希望している。

生徒指導をどのように思っているか。

校則については、自己評価で7割が「だいたい守れた」としている一方、不満があり、8割以上が「適切でない校則もあり改正して欲しい」という希望を持っている。また、全体的に守り方はルーズあるが校則が厳しすぎると思っている。制服については、8割以上の生徒が不満を持っており、生徒の意見も取り入れて変えて欲しいという希望がある。

何を学校に期待しているか。

学校生活で魅力を感じるものについては、ほぼ中学校1年生と同じ傾向であるが、中学3年でのニュージーランド海外研修の体験から「海外研修に行ける」が最も多い。さらに、教育課程に海外研修が組み込まれたコースがあれば行きたいという生徒が6割いる。一方、「一人一人の個性を生かした教育をしている」と考えていない生徒が8割いる。パソコンを導入した授業には肯定的で、半分以上の生徒が家庭にパソコンを持っている。教師のパソコン及びインターネットの利用状況をみると、本校では、生徒の家庭環境の方が新しい社会の風潮に対する対応がはやいと思われる。新指導要領で、中学校で

もパソコン及びインターネットの利用が含まれ、1998年度中に岡山市内の中学校全校がインターネット利用できるようにする方針であるので、本校においても、中学校における情報教育をいかに進めるか検討する時期にきていると思われる。

(3) 高校生対象のアンケートについて

①高校1年生

学習面について、どう考えているか

家庭での学習時間は、2～3時間が多い。家庭学習が計画通り進まない理由で一番多いのが「宿題をするだけで精一杯」で、学校の宿題と家庭学習を別に考えている。中学生では「通学の疲れ」の割合が多かったが、高校では減っている。代わりに「学習内容が難しく、学習の仕方がわからない」が増えている。本校では遠距離通学生が多いが、高校になって、遠距離通学生には慣れたが、学習内容が難しくなり、受験も意識するようになったと考えられる。自分の成績については、中学生より否定的で、「悪い方だ」と思うし、自分には不満である」が約6割になる。しかし、まだ「努力すればもっと良くなる」と6割が思っている。

部活動・特別活動について、どう考えているか。

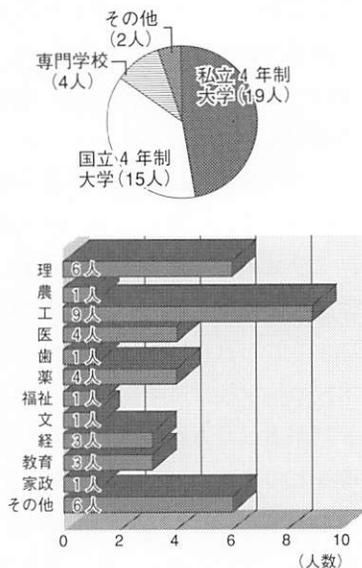
部活動には、中学生同様、約6割が入っていない。部活動入っていない場合は、放課後は「すぐに学校をでる」が8割以上で、学校が授業以外に時間を過ごす場としてあまり使われていない。今まで、修学旅行は、高校1年で長崎・五島方面に行くことになっていたが、そのことにあまり魅力を感じてはいない。修学旅行の行き先は1999年度から沖縄に変更されている。

何を学校に期待しているか

魅力を感じたのは、中学生同様「英語教育に力をいれていること」がトップにあげられている。本校のイメージとしては、やはり英語教育があるようだ。新しく赴任した英語の教員から、

「公立の採用試験は受かったが、英語教育をするのなら清心がいいと思った」という話を聞いたことがあるが、社会的に「清心＝英語教育」というイメージがあるのだと思う。理科の教員である私としては、IIコースには3分の1、理系があり、女子校で物理の授業が開講できていることの方が凄いとされるのだが、一般的イメージにはなっていないようである（参考に、1996年度理系1クラスの進路結果を示しておく）。卒業後の進路は、ノートルダム清心女子大学への進学希望が1割、国立大学進学希望が4割になっている。

1996年度理系1クラス(40人)の進路



②高校3年生

宗教教育についてどう考えているか。

中学校同様の傾向であるが、霊的講話について中学生ほど否定的ではない。ただ、IIコースの方が「必要ない」と答える率が高く、32%になっており、「少し工夫して欲しい」をあわせるとやはり9割近くになる。仮に、聞く側が話す側のレベルに達していなかったとしても、何らかの工夫をする必要がある。我慢して聞かすことに意味があるという訓育的なとらえ方もあ

るが、講話の性質から考えるとそうはいえないと思われる。

学習面ではどう考えているか。

塾や予備校に8割近く通っており、家庭教師に教えてもらう生徒もさらに増えて、4割以上になっている。塾や予備校に通っている生徒が多いためか、学校での補習授業については、自由参加にすべきであると考えているものが多い。コース制は受験のために設定されたものだが、コースそのものについては、両コースとも肯定的にとらえている。学歴や偏差値を肯定しながら、IIコースの方が「10年先は、学歴優先社会ではなく、実力優先社会になっている」と思っている生徒が多いというのは意外であった。

部活動・特別活動について、どう考えているか。

部活動については、「参加して、充実した高校生活を過ごした」という生徒は、Iコースに多く、コースの性格を反映している。IIコースでは2割しかいない状況である。修学旅行については、クラスの枠を越えていくつかのコースから選ぶ方式や外国へ行くことなどに対して、直接参加することはないが、肯定的であった。また、本校の中学校に修学旅行が無いことに対して、6割があった方がいいと考えている。

生徒指導をどのように思っているか。

校則については、「まあまあ守った」と自己評価しながら、校則は厳しいが、守り方はルーズであると8割が思っている。また、「適切でない校則もあるので改正して欲しい」と考える生徒も8割いる。制服については、生徒の意見も取り入れて変えて欲しいという希望が9割近くあった。

学校に何を期待するか。

魅力を感じるものについては、ほぼ高校1年生と同じ傾向であるが、「英語教育に力を入れている」がIIコースでは支持率が下がっている。「教育課程に海外研修が組み込まれたコースが

あれば行きたい」という生徒が6割おり、海外での生活体験を期待している。パソコンについては、家庭でのパソコン所有率が高く、約半数が持っている。高校では、新指導要領で、普通科高校でも「情報」の授業が新しく設定されたが、パソコンを導入した授業の導入には肯定的で7割以上が希望している。

(4) 保護者対象のアンケートについて

約半数が教育費についてあまり負担を感じていないと答えている。公立中学校などでは、なるべく生徒を部活動などさせて学校で面倒を見て欲しいなどの要望が強い。今回、保護者が学校へ何を期待しているかを把握すべく設問をつくったが、全体的に学校へあまり依存していない傾向が感じられた。長く学校に居させて欲しいという希望は少なく、また、もっと宿題を出せとも、勉強についていけないのは教え方が悪いからとも言わない。一方で勉強は学校だけで十分ではないと考えている。これらのことから判断すると、学校に依存していない。さらに言えば、学校に期待していないとすら感じられる保護者像が浮かび上がってくる。昨今、「しつけ」などの家庭教育の役割まで学校の中に取り込まざるをえない状況で、授業が成り立たなくなっていることが多いのではないだろうか。教員の立場からすると、一般の学校に比べ、一見「やりやすい」保護者といえようか。

ただ「成績が下がった時は個人的に指導して欲しい」が8割いる（保護者の立場からすれば当然かもしれない）。うがった見方をすれば、教育の名のもとに様々な強制的・全体的集団指導が行われることは大きなお世話であるが、個人的には、細かくかかわって欲しいというふうにも見えないことはない。しかし、時代は個人指導とか教育の多様化が叫ばれる趨勢にありながら、現状の学校教育では集団指導をするしかない側面もある。また、別次元の問題として、

民主的な集団づくりや集団の中で生きる力をつけることが、学校教育の目的の一つと考えらえ方もある。それに対して本校では個人主義に流れている保護者からの理解や協力を得にくいといった事態が生じないでもないと言える。

子どもの将来については専門性をもった職業で活躍して欲しいと考えており、本校の教育に最も期待することは「自立した人間になるための女子教育」としている。自分で前向きに生きていって欲しいと、平凡ではあるが常識的かつ一般的な願いを子どもに対して持っているということがうかがえる。

8. 研修会での提案

プロジェクトでは、まず「建学の精神」について考えることから出発した。それについて、各自が集めた資料をもとに発表した。次に、「過去10年の教育活動の見直し」として、プロジェクトの構成員が校務分掌の代表という立場であることから、「生徒会活動・生徒指導」、「入試・広報」、「進路」「行事・宗教教育」に分担して、各分野の資料を収集し、整理していった。他校の状況を見るために、一か月かけて、手分けして新設校、伝統校、私立校などいろいろな学校の文化祭に行った。仕事ではあるが、楽しみながら取り組んでいたと記憶している。このような過程で得た資料をもとにしてアンケートを作成した。アンケート結果の分析をしながら、2年目に、具体的な将来の教育を討議した。そして、最終的に1997年8月29日の研修会で結果報告をした。次の①～④は研修会の討議の結果を踏まえてプロジェクトチームがまとめたものである。

① どんな学校を目指すのか？

学力養成と人間教育の両方を目指す。ここでいう学力とは、受験のためだけでなく自己実現のため、幅広く学ぶ力を指すものであり、生涯

学習につながるものである。人間教育とは、キリスト教精神に基づいて、前向きに生きる力を育てることである。大学合格者数のみを競う受験校は目指さないとした。

② これからまず早急な着手が必要なのは何か。

教育課程である。教育課程では、週5日制に伴う単位数の削減に対して、新しい教育課程をどのように組んでいくかが問題になる。具体的には、今までの選択科目の内容を再検討し、削除する内容と新しく盛り込むべき内容を検討していく必要がある。魅力的な教育課程の創造が望まれる。

※ 1998年度から、高校1年生で「国際情報」、1999年度の高校2年生で「発展科目」という新しい授業が設定された。

※ 「国際情報」及び「発展科目」を盛り込んだ教育課程の取り組みは、平成10年度特色教育振興モデル事業として認められ、助成を受けた。

③ 教育環境を充実していかなければならない。

中学校受験者数の増加と高校受験者数の減少の関係を単純にとらえて、中学校のクラス数を増やす決定があった。最終的には実施にいたらなかったが、このとき、プロジェクトチームでも、議題にあげ、「特別教室などの教育施設の不備」「県外通学生の多さ」「受験者数の推移の把握と予測の検討の必要」などの問題点を指摘し、現段階では無理であるとした。このときに取り上げられた問題は現在も改善されていない。具体的に「クラス定員40名以下」、「特別教室の整備」、「教員の研修制度の充実」、「生徒用パソコンの導入」について前向きに検討する必要があるとした。

※ 高校に1998年度にパソコン教室2教室が整備され、生徒用48台が導入されている。

④ その他に対応した方がいい具体的問題とは何か。

「修学旅行・海外研修」と「制服」の問題である。修学旅行については、現在の修学旅行には不満もあるので、より充実した内容に変更する時期にきている。また、海外研修については、魅力を感じている生徒も多く、さらに充実させる方向で考えてほしいとした。また、制服については、教員も生徒も不満感が強く、早急な検討が必要であるとした。

※ 制服については、制服検討委員会が組織され、現在検討中である。

※ 修学旅行については、1999年度高校2年生から、沖縄への研修旅行（「戦争・平和」、「歴史・文化」、「自然・環境」の3コース）実施が決定している。

最後に

明治5年の「近代国家としての教育改革」、昭和23年の新憲法の「戦前の反省としての教育改革」、そして、今回の平成6年の臨教審・中教審の「血を流さずに行う教育改革」をまとめて、日本の3大改革といわれている（「改革」という言い方には問題のあるものもあるが、便宜上そのように表記する）。私自身にとっては、平成の教育改革が直接経験する最も大きな改革ということになる。平成の教育改革のキーワードは、ライフステージの変化に伴う「生涯教育」である。新指導要領の変更に帰着し、高校教育の先にある大学教育、大学院の教育、そして社会人の教育にも展開されている。具体的には、教育課程では、中学での選択科目の導入や高校での総合科目、情報などの新設がある。

実際に教育をめぐるいろいろな局面が変化している。例えば、大学入試の選抜方法でも、小論文の導入や面接を重視した形式が多く取り入れられたり、生涯教育を目指して、社会人に大学や大学院が広く門を開くようになった。そして、教育環境を支えている行政のレベルでも、中高一貫教育や学区再編成など、教育制度の多様化と弾力化を推し進める方針が目立っている。受験の低年齢化の懸念があるが、大きな変化である。

今までの教育は、高校・大学と教育段階が進むほど、組織的（学部や学科など）には、目的別に細分化されているが、入試制度の設定の仕方や能力の捉え方など全体的に見れば、基本的に画一的であり、多様な教育対象に対して一つの制度で対応してきた。しかし、現代のようにニーズが複雑化すると、これまでの制度では対応しきれなくなってきているのが現実である。以前のように、「良妻賢母」や「立身出世」など目的が限られた時代なら対応できても、現代のように目的要素が幾重にも重なっている状況、例えば、「エリートとして認められたい」「学問的に研究したい」「趣味として楽しみたい」「教養を身につけたい」「就職に役立てたい」「規律正しい生活習慣を身につけたい」など複雑に目的が絡み合った状況には対応できない。そして、旧来の画一的な扱い方とセットで最優先されてきた「みんな同じでなければならない」という平等主義もまた、再考が必要になってきている。今までは自由と豊かさを保証するためには「平等」が必要であったが、等質的な「平等」だけでは対処しきれない事態があらわれてきた。今やどんな目的設定をし、どんな教育を供給するかが、個々の学校に問われている。私学では「建学の理念（目的や方向性）が問われている」とよく言われてきたが、そのことは今や私学に限られたことではない。高度情報化や国際化、

家庭・地域の教育力の低下など、教育を取り巻く環境が大きく変化している今の時代は、異なる理念による異なる組織の再構築が必要な時代なのである。

公教育と受験勉強という視点から、「理想の教育が、偏差値教育にゆがめられてできない。」
「本当の生きた英語教育がしたいが、受験があるからできない」という話がある。関連して、公教育の立場から考えて、「私立中高一貫有名校が、学習指導要領を逸脱した教育をして大学受験で名を上げ、実績を作っていることが悪い」といった風潮が作り上げられた時期があった。そして、1993年頃、偏差値を提供させないように、中学校での業者テストの実施が禁止されて話題になったことがある。偏差値が教育を歪めるから禁止ということであろうか。今再考して、本当にこの対策は実効があったのだろうか。現在、私が知っている公立中学校では、校内テストで独自のランキング表を作成して対応するようになっただけで、現場の進路指導の基本的方針は変わっていない。一時期状況が混乱しただけである。変わった点は、学校をまたがる一斉テストでの業者の利益がなくなったということで、受験のあり方には影響を与えてはいない。この対策での限界は、入試が学力試験である限り、受験生の振り分けの道具として便利な偏差値が使われるのは当然であり、根本的に入学試験や学力観そのものの見直しをしなければ解決がつかないという単純なことに気がついていなかったということにある。

また、数年前、大学・短大の学科名に、「国際」が流行した時期があり、同じような名称が全国のいろいろな大学に登場したが、学生を獲得するための方策と考えられる節もあった。後に歴史的に判断される時、その教育改革が、ただ流行を追い求めたものであって欲しくない。内実のある将来を見据えたものであって欲しい。

本校の校歌を作詞した永瀬清子（当時79歳）が1985年5月3日の憲法記念日・県民の集いで次のように述べている。新しい時代に直面した我々に対するメッセージとして受け取りたい。

「つまり、今から考えてみて、はじめてあの時正当だったとか、正当でなかったとか、或いはこのような意味があったのだという事が考えられるので、その時、その時代にとっぷりはまっている時は意味がわかりません。それが歴史というものを学ぶわけだと考えます。以前、司馬遼太郎氏が面白いたとえを引かれましたが、平地にいたら敵がどこから攻めてくるのか見通せないわけですね。少しでも高い所つまりお城の物見台から見たら、あっ今あちらに敵が逃げたのは誘いであって実は伏勢がかくれている、とか、こちら側の敵は大勢のように見せかけても実は手薄だとわかるわけです。その一歩でも二歩でも高い所から見るとというのが歴史の本当の仕事で、何年何月に誰がどうした、と云う、事実の記録も勿論大切ですが、これは第一次の仕事で、つまりはこのように一歩あるいは数メートルの高さから事実の意味がより以上につかめるようになる事が大切なのだと思います。」

教育改革の時代という新しい局面を迎えたとき、今までの歴史を読み、正確に時代を判断し、勇気をもって一歩を踏み出すことが必要とされている。私学は、教育の理想と現実的な経営の問題の狭間にあっても、私学の理念を生かして、社会に貢献する新進的な役割をはたしていかなければならないと思う。

最後に、このプロジェクトに2年間一緒に取り組んだ、小埜雄一、加村佳子、新谷康夫、多鹿暢彦、藤田昭敏、森茂樹、山内宏之に心から感謝する。

参考新聞記事

- 朝日新聞：高校のコース多様化進む普通科高校
(1995.7.21)
- 中国新聞：地元限定で推薦入試広島県教委流出
に歯止め策 (1995.8.28)
- 山陽新聞：特性生かし魅力づくり岡山の県立高
校 (1995.8.28)
- 読売新聞：生徒に人気インターネット授業 (19
95.9.30)
- 朝日新聞：薄い先生への信頼 (1995.10.21)
- 山陽新聞：学校依存強い日本の親 (1996.1.3)
- 日本経済新聞：服から個性，生徒心開け (1996
.2.14)
- 読売新聞：学校週5日完全実施・中教審小委報
告案に明記「生きる力」育てる (1996.2.19)
- 毎日新聞：投票で「服装自由化」保護者の責任
で校則変えます (1996.2.24)
- 東京新聞：校則見直しに拍車 (1996.2.26)
- 山陽新聞：県立高校入試改革答申・普通科を中
学校制へ拡大 (1996.2.27)
- 朝日新聞：社説・教育にもっと自由を (1996.
8.24)
- 朝日新聞：授業時間大幅減を検討教育課程審が
初会合 (1996.8.26)
- 読売新聞：十代に正しい性教育を (1996.8.26)
- 山陽新聞：岡山県内の私立高校・相次ぐ共学化、
校名変更 (1996.8.26)
- 山陽新聞：県立普通科28校の特色づくり・多様
な選択肢提供 (1997.11.30)
- 朝日新聞：ビデオで「制服」考えよう (1998.
9.27)
- 日本経済新聞：全生徒にメールアドレス・岡山
県交流授業などに利用 (1998.9.29)
- 山陽新聞：マルチメディア室開設・江見商高英
語授業に活用 (1999.1.8)
- 朝日新聞：指導要領案・高校独自の科目・自由化
・2003年度入試から適用・単位数削減へ (1999

.3.1)

雑誌資料

- 山住正己・中島平三・山崎憲治・越田年彦：中
高一貫教育論 (岩波書店「世界」1997年4月号)
2010年の教育環境を予測する。(進研ニュース
「View21」1997年4月)

参考図書

- 藤田英典：「教育改革・共生時代の学校づくり」
岩波新書 (1997)
- 佐伯胖：「新・コンピュータと教育」岩波新書
(1997)
- 坂本秀夫：「校則の話」三一書房 (1990)
- 寺脇研：「動き始めた教育改革」主婦の友社
(1997)
- 永瀬清子：「私の来た道」岡山歴史文化協会
(1985)
- 永瀬清子：「すぎ去ればすべてなつかしい日々」
福武書店 (1990)
- 永瀬清子：「詩人永瀬清子作品集－熊山橋を渡
る－」熊山町 (1997)